WASON
HQ
1104
J74+

Jun. 1893
no. 346

明治廿六年六月十日發兌

女學雜誌

第三百四十六號

女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

本號目錄

社説
救療會
兒籃
鼻で鰐を釣つた話（實事）しづ子
雜錄
吾妻岳破裂の話（馨子）
小説
春風裡（トオストイ伯、作○不知庵主人、譯）
家政
子供に付て（しづ子）○筍の酢漬製法○甘醬の製法○蓮根を砂糖漬に貯ふる法○食物養分比較表○田家のこよみ○園藝法
隨感
漫に白雲をながむるの讃○優しき覺悟○勤儉の健やかなるもの○獨默のたのしみ○涙の人

前號目錄

社説
地久節
恥らふ可き醜態
隨感
人生の觀深き想○歌ふ人○今春、花を觀ず○神に近き人○浩然の氣○物の哀と人の情け○情けの極致○能因、頓阿、花山僧正、沙彌滿誓の歌
兒籃
黃金機會（若松しづ子）
小説
春風裡（トオストイ伯作、不知庵主人譯）
家政
五才の本覓（若松しづ子）○食物養分比較表○田家の暦○園藝法
雜錄
米國の下婢○笑ひ草○隱士經綸錄
時論
男女高等師範學校を合併すべし○何故に高等女學校敎員は恩給を受るを得ざる乎○一時の混雜に避易す可らず○米澤鷹山公の廢娼論○をしろい分析表
女報

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

明治二十六年六月十日發

第三百四十六號

社說

伏せ廬の、曲げ廬のうちに、直た土に、藁解き布きて、父母は、枕のかたに、妻子どもは、后の邊に、圍み居て、憂ひさまよひ、竈には、煙ふきたてず、こしきには、蜘蛛の巣かけて、飯かしぐことも忘れて………山上憶良。

救療會

去る三日、東京中央會堂にて、救療會の爲め慈善音樂會催うされたる節、余が演說せしとの筆記、思ふ所ありて、左にかゝぐ。

美妙の調べ整のひたる音樂會にて、多少辯論の意味を含める演說などせんは不相應しからず。故に、余は、音樂會に、演說なき方を好しと思ひ、固より自から今夕の招きに應ずべきならねど、兼てより是非とも公けに申したしと思ひし一事あり、此度は上なき好機會なればとて、遂に辭せずして此の壇上に出づることゝなりぬ。

人の世に立る樣を見るに、全く相反したる二樣の趣あり。一面より、之を見れば、人は獨立するものなり。天地の間、受造物、森羅として万々の數多き中に、眞とに能く其獨自一己なるものを有つは、單だ人類のみなるべし。彼の彼たる、內部の生命は、たとひ天地碎け、六合崩れ、宇宙悉皆裂滅するとありとも、倘ほ、減らず、損せず、亡びず、永久、永遠に其獨自一己を所有すべし。故に、靈魂の存在、靈魂の不滅、より考ふれば、人は實に天地間に於ける最初唯一の獨立者なり。

然るに、更に他の一面より、之を見れば、人は助立するものなり。人は、到底只一人にては、棲ふこと能はざるものなり。もし、たゞ一人棲ふときは、假令ひ生れども、倘ほ死せるが如きものなり。天地の間に於て、人ほど、助けを多く要むるものなし。其生るゝに先だち、人の子ほど久しく母の胎內に居

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るものはあらず。既に、生れしのち、人の子ほど、長く乳を吸ひ、亦養はれ、父母の愛育を久しく受るものはあらず。既に、壯年となりてのち、男女相助け、一生の同伴を約するとき、人ほど、其親密を要め、其親密を切要し、其半身をし失すれば、全く不隨となること、人ほど甚しきものはあらず。既に、老いて后ち、人ほど、其子孫、其后生の厄介となるものはあらず。要するに、他の助力を要すること、人ほど切なるものはあらざる也。此面より看れば、人は即はち天地間に於いて、最とも多く助立することを要するもの也。

此の、獨立と助立との二つ、相結ばれ、相解け、相併び、相離れて、人世の表裏、陰陽をつくる。權利、義務、競爭、戰鬪と云ふもの、一方に出で、同情、親和、博愛、救濟、と云ふもの、他の一方に出で。義と愛と、武と文と、罰と惠と相對して存す。神、この故に、其義罰を示し、亦た慈愛を賜ふ。ソドム、ゴモラの上に火下り、ユダヤのベツレヘムに基督下り、汝等もし其生命を失へは何の益あらんやと敎へ、更に、兄弟の爲に生命を失なはば、死するも尙生くる也と敎へたり。此の二つの鍵は、人生の秘義を開くものなり。此の二つの燈明を以て、照らさゝれば、人生を洞觀すること能はず。此二つ、ともに發達せざれば、個人と社會と、其圓滿なる聖域に入ること能はず。

左れば、吾等が、世に立つて盡すべき行に、常に此の二樣の覺悟を抱き、不斷、獨立と助立との二道を履行せざる可らず。一方に於て、嚴正に守り、嚴正に主張し、首をはね、人を殺し、世を騷がうともあると同時に、他方に於て、能く物の哀を知り、人の情けを辨まへ、劍の下に涙を落し、殺戮の中に、切なる祈を捧げざる可らず。此故に法庭、巡査、牢屋、海陸軍等を、猥りに非とせず。たゞ、同時に、慈善會、貧民院、孤兒院の類の多く存せんことを望む耳。

左れば、助立と獨立と、相害せざることを心掛け、二つの要理をして、相逆うふことなきように成立せしむべし。獨立に過ぎて、冷淡、無情、酷薄、殘虐に流るゝも不可也。助立に過ぎて、圖鹵、曖昧、優柔不斷、弱志薄行に陷いるも、亦不可也。此二つの事、ともに戒しめざる可からざるに際して、凡そ慈善の心掛にあつき諸君は、世人が相助立するの道を助け玉ふの一點に於て、ことに愼しみ玉はざる可らず。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

慈善、救濟の志殊勝なりと雖ども、其道を得ざるに依て、正反對の結果を來すと多くあり。乞食をあわれみて、錢を投ずれば、乞食は三日此經驗を爲して一生其下賤なる生涯を離れがたきに至り、親切なる情けに過ぎて、人の精神くぢけ、折角勃發せんとせし勇氣折れて、たゞ〳〵人の保護を要むる青年あり。前年、濃尾に震災ありし時、世の慈善家は、万斛の涙を以て、千百の金を、日々路人に配與したり。之が爲め、人々は、姿を變へ、身なりを變へ、度々出直して、之を貰ふとを商賣とし、遂に格外に價格よき人夫仕事をすら怠たりしもの多くあり。而して、其悪習慣、今以て除かれずと云へり。故に、賢こき慈善は、賢こき生産よりも難しと云はる。正當なる、慈善は、たゞ一時の感情にて決す可らず、數多の周密なる思慮反省を要する也。

左れど、尤とも賢こき、而して、其良結果の尤とも明白なる救濟法は、人の病を助け、之を慰さめ、之を醫やし、且つ、此の人生尤とも大切なる時に於ける其教訓を受けしむるやうに誘導するより善きことなしと知らる。

人の命數は、固より定まり居るなり。左れど、其定まり居る勘定の内には、名醫、大家に診察せられ、一縷一髮の命脉を百千の黄金にて繼ぎ止めると云ふ、富人の申分なき治療を受くるとも含まれ居るならん。又、もし一服の下劑あらば、難症には至るまじ、一斤の氷あらば、急激の症とはならざりしに、見す〳〵其手當の出來ざりしによりて遂に死せりと云ふ、貧乏人が金なきによりて、早く困死するとも、勘定せられ、而して、天に於て其命數定まり居るとならん。或る廉潔なる人あり、生來金を溜めると云ふとを恥辱の如く思ひしに、錢なきが爲に、助かる可き人の生命、もろく失せゆきし悲慘の景況を見、初めて、黄金の價を知り、家族の養生の爲にとて、初めて貯金の心掛を生じたりと云ふ。

而して、家の働らき手一人病となりたる爲め、一家悉く難儀の淵に沈むもの多くあり。彼のよひ越しの金は持たぬと言ひ、妻は寒きに泣き、子は餓て泣くをも構はず、酒を飲んで、貧困する族などは、もとより顧みる筈にあらねど、正直にして、勤勉なる働らき手が、額に落す汗の點滴にて、やうやく一家數人の妻子が口をうるほす折柄、働らき過て、脾を破りたるか、又は食物過勞に相應せずして追々衰弱したるか、遂に俄

然病に倒るゝに至らば、當人の遺憾は言ふに及ばず、一家數人の困難察するに餘りある也。如此き、病者の病を助け、之を癒やすは、慈善中の尤とも善き慈善なり。

ことに、病は、人生尤とも大切の時機にて、人の靈性の進退する一大機會なり。人生を觀じ悟り、又、人情を思ひしむるは、一に此時にあり。左れば、病なき人は、兎角、無情、冷淡なり。古人の隨筆に、才子多病なるにあらず、多病の人才子たる也、病なき人は兎角情こはく情けつれなきもの也、と書きたり。左らば、わざ／＼病氣となりて、勉學するかと云ふに、たゞ病となるのみが、能きにあらず、病めるとき、初めて、人の助けを求め、人の同情をありがたく感ずるを知るが故に効あるとなれば、此時には、他の健全なる人、骨惜みなく之を介抱し、其誠を現はすべきの時也。もし然らずして、之を冷遇せば、病人が無情をうらむ怨みは一層にて、人生の眞とに果敢なく、人の到底賴むまじきを見、人間の實相は之かと誤解して、木石の心となり果るものなり。如此なれば、たとひ其人の躰は本復しても、其人の心は、以前よりも大病となりたるものなり。其肉生きて、其心死するに至らば、何の効あらんや。故に、人の病氣の時は、傳道の最良時機なり。又本人に取りて、修練發明の最良時機也。故に、慈善家は、此時、其躰を救ふのみならず、併せて其心を救ふ。慈善の方法中、之より、善きは無し。

古來、醫士は、此故に尊とき職となされたり。仁人君子、つとめて之を兼學したるは、此故なり。此精神、醫の術に現はれて、初めて醫の徳完し。然るに、方今は、醫術のみ進みて、醫道は反つて、衰ろへたり。昔し、クリストは、人を救ふの精神滿ち充ち、其の觸るゝ所、忽まち人を醫やせり。醫道堪能の人も亦如此く、其至誠なる精神よく人の病を醫やすと多し。病人は、一命を之に托し、醫は、一身を之に與へ、苦痛を救ひ、人を助けんとする、大至誠の念、祝福をうけて、忽然、大病の本復すると多きもの也。然るに、今の醫術は、指の先と、權衡と、理學的化學的の死せる藥とが、人の生命を預かるのみにて、醫道の士の、大熱誠が、病人一縷の命脈をつなぎ止ると云ふ、美なる出來事に付ては、余り多く聞ざる也。此に至りて、余は兼てより公けに感謝陳辨せんとせし一事を申す也。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

此度び、救療會なるもの出で來、慈善中の尤とも好き慈善たる、貧人の病を治療する救濟の道立ちたるを、深く祝するが、余は之を祝するに、一層の感あり。即はち、醫學士、高田耕安君、其の救療委員長たるによりて也。君は、實に明治年間の醫道の士なり。余は、其至誠、其熱心、其抱負の遠大にして高潔なるに服すると一日ならず。余は、人としての君に歎服すると非常なり。君は言に吶、行に敏なり。吾等が知れる、貧しき人病めるとき、其枕頭に君を見ざるとなし。而して、其信ずる所の治療法を行はんが爲には、如何なる大家にも服せず、余は君が大學生の制服を着けつゝ、或る老婆の病を看られたる時、某と云ふ大名醫が診察の法を盡さずとて言ひ爭はれたる辯論を傍聽し、其至誠に感激し、今以て其熱辯を忘るゝと能はず。余は、醫術を知らず、左れど、君の至誠に生命を全托し、毫も惜む所なし。余にして、大患あらば、君の指圖の外に、何如なる養生をも爲さじと覺悟し居る也。余は、人としての君に服するのみならず、又醫道の士として、君を推重すると一と方ならず、道の爲めに之を感謝し、且つ世人をして共に感謝せしめんと思ひしと一日ならず、只管ら其機會を待ちつゝありし。今日演説せよとの委頼ありしとき、余は平時演説と云ふとの出來ぬたちなれども、只だ此一事を最后に言はんとて、喜こびて、其命をききたるもの也。

野も山も茂りあひぬる夏なれど、
人のつらさは言の葉もなし。

兒藍

鼻で鱒を釣つた話（實事）

しづ子

みなさん、魚はどういふものを食べたがるか、御承知ですか?。蚯蚓に團子………。さ樣、それから生の肉類。エー、それに同じ魚で自分より少さいのを食べるものが多いといふとを知つておいでのお兒も有ませう。ホラ鯨が鰯をおつかけるといふともお聞なすつたでせう。それから鮫などの樣な大きい魚になり升と、隨分人間を呑み兼ねないのですよ。それは

さうと、子供の鼻を食べさうにした魚のはなしをお聞になつたとが有升か。有升まいネ、わたくしは聞いたとがあるんですよ。現に其兒をよく知つて居て、今でも生きて居る人ですから、其おはなしをしておあげ申ましやう。

ある夏此兒が兩親と避暑に余處へ行つて居升たが、近處に美事な大きい湖水があるので、父は小舟を借りては其兒の母と其兒を載せ、麗らかなる日や、又月の光澄んだ夜に湖水の上に好い樂みをして居り升た。ある時父は用が出來て一寸家へ歸つた留守に母が武(此兒の名)をつれて湖邊を散歩して居升と、武はいつも乘る小舟が岸に繋いで有るのを見て母にせがみ、一處にのつて、母は見覺への漕手となり、武はチヨコント、舳の方へ座つてニコ〳〵して居り升た。武は此時、漸やく八才計りの子供のとですから、母は心配して、

コレ、武ちやん、舟の椽へ寄りかゝるのでは有ませんよ、音なしくシヤントして入つしやい。

武は畏こまりて、

ハイ、でもネかあちやん、少ウし顏出して、水ん中の草が見度んだもの、だからツーット少し丈顏出してませうネ、

かあちやん、草んなかに、さかながはいつてるだらうか?

エイ、はいつてませうよ、でも舟がいけば驚ろいて余處へ逃げてつてしまひ升だらうよ。

じやあ僕見てゝやらうや、逃てく處を、かあちやん、いつかとうさまの入つしやる時、釣に來ようネ。

さうネ、いつか來ても好けど、何にもつれやしまひと思ひ升よ、それに釣をするには針だの餌だのなければなりませんもの、一寸は來られないの。

かあちやん、餌つて何?。

さかなの食べたがる物ですよ、それを針の先へつけて、水の中へ入れて置くと、さかなが來て食ひつく、食ひつく處を引あげるの。

さかなは何が一番好だらう?、

蚯蚓だの、生の肉が、一番好でせうよ。

武は直ぐと、釣つて見たくなり、困つた顏つきして、

かあちやん、今こゝに直とあれば好ネ、

母は、武の妙な顏つきを見て、笑ひながら、

さ樣さ、おあいにくさまだつたネ、それとも武ちやんが自

分の肉でも切れば有るけどホ、、、、
武は、一層困つた顏になり、
　でも、あのたんと切れば、いたいや、嫌だ〱。
といひながらも、そこらにもしや魚か來て居るかと尙一際湖水の面へ顏をさし出して、頻りに眺めて居り升たが、見へる物とては自分の小さなポッチャリした丸顏の、水に映る處計りでした。併し魚が眼にはいらなかつた武の顏は、却つて魚に見付られ升た。丁度此處へ通り掛つた、ではない泳ぎかゝつた湖水のひれ仲間に名を知られた老成な鱒どのが、お腹のすき加減といひ、甘さうな物が水の面に見へる工合といひ、堪へ切なかつたさうで年甲斐の分別が一寸どこやらへ行升て、大口をあきながら、思ひきつてピョィーと跳び、俯向いて餘念のない武の孫芋の樣なお鼻へ食ひつかふとする。鱒の口がピシャリと〆ると、武の口が大きく開いて、恐はいのと痛いので、ワット一聲叫びを洩し升た。
武は容赦なくグイと頭を引こませる、鱒どのも飛んだ粗率をしたと氣がついて、食ひついた處をはなす其途端にパシャリと音して、鱒は舟の中の擒となり升た。
ホヲ大變！、母も武も驚ろいたといつたら、跳ねるやら、蹴るやら、もがくやらで、四百目もある魚のとですから、舟も搖ぐ計りでした。母は思ひがけなくはいつた邪魔ものを、どふかして放りださうと思ふより他の考もなく、
　どふして出してやらう、ネイー、
と困つた聲でいひ升た。折しも、湖岸に此珍事を傍觀て居た人があつて、
　艪で、其艪で殺しておしまひなさい、頭をなぐつてお遣んなさい！
母は大骨折つて、やつと、此大鱒を打殺し升た。それから、武の顏を見ると、鱒の齒に當られて、少し血が出て居り升た。母は可愛さうだと思ひながらも可笑くつてたまらず、
　武ちやん、とう〱餌をはづんだネ、どうだへ？大變痛いの？
武は余りビックリして泣にも泣れず、これから泣くのも、少く諦りがわるいといふ處で、
　いゝーへ、だけど、これからモゥかふしてさかな釣のは嫌。
母は又しても可笑しく涙の出るほど、笑ひ興じながら、

おまへかふして釣度とつて、モウ釣やしますまい、誰も眞似の出來ないよとを武ちやんが一人おしなのだわ、昔しから、子供の鼻をたべやうとしたさかなの話しはない樣だ、聞いたことがないから、サア、これから宿へ持つて歸つて料つて貰つて、おとうさまのお歸りを待ちませう。

かあちやん、とうさま、僕が釣たんだつていつても、本とうになさらないかも知れないネ。

おまへの鼻が何よりの證據ですよ、それさへ見れば………

といつて、母は又も吹出し升た。武は、モウ成人になつて、此湖水などへは舟で幾度も遊びに來たとが有り升。併し其後鼻で釣をしたといふ噂は、一度もきこえません。

六才の小女………わたしは、かあさんの樣に大きくなると、お醫者か坊さんの所へ、お嫁にいくの、

母………なぜ？

小女………なぜつてネ、お醫者んとこへ行けば、いつ病氣になつてもいゝし、坊さんへとこへいけば、いつ死んでも、おとむらひが出來るもの。

雜錄

地面は冷やかなれど下熱す。
時ありて万丈の火焔を吐く。

吾妻岳破裂の話

馨子

吾妻岳破裂の事を記す前に、先づ火山破裂の原因を掲ぐべし即ち左の如し。

第一　原因

地球は元氣躰の寒氣に觸れて液躰に變じ、液躰の外部又益々凝結して固躰となりたるものなることは、今更說明を俟たざることなるが、斯く液躰の外部のみ凝結して固躰となりたるよりして、內部の熱度高き溶液體は常に沸騰して、動もすれは地珠の外面へ迸出せんとするの勢を有すること、恰かも密器に水を容れて之を沸騰せしむるが如し。此時に當り、若し其器に多少の罅隙あらんか、水蒸氣は忽ち其罅隙より非常の

勢を以て噴出するならん。彼火上に置きたる鐵瓶の口などより湯氣の立登るは、此一例として見るを得べし。偖地球の外皮は恰も此密器の如き關係を有し居ると雖も、其間又多少の裂罅なくんばあらず、何をか裂罅といふ、曰く地皮益々寒氣に觸れて次第に收縮するに際し、其間にヒヾを生じたるもの是なり、已にヒヾを生ず、溶液躰の此間を滿すは、素より其所なれば、彼噴火破裂などは、總て此罅隙より生ずるものと知べし。而して其噴火の多くは山岳等に在る所以は、山岳は地皮の收縮より生ぜし一の地層の折目にして、地中の溶液躰を洩すに甚だ容易なるを以てなり。斯く裂罅より山岳などを經て常に地球の外面に噴火するものを、此破裂の第一原因と爲す。因に記す地中溶熱躰の爲めに噴火する際見る所の火は、摩擦電氣等の作用にも基くと雖も、重に地皮の間に存する可燃質のもの丶燃燒に因るなり。彼地中海のエトナ山、ジヤワ島の火山の如きは此種類に屬す。

第二　原因

噴火の際、其孔口より溶解岩火山灰等のものを噴出し、其噴出されたるものは、次第に其孔口に堆積して圓錐形を爲す。此の如くにして其圓錐形の漸々大に漸々高きに連れ、噴火口漸次に深くなり、噴出の道筋益々長くなりて噴火次第に困難となり、遂に全く噴火せざるに至る。彼富士山の今は噴火せざるも此理にして、又其山形の整然たる圓錐形を爲せるも之に基けり。去れど是は只其道筋の噴火に適せざるが爲めにして、地中の溶液躰はさのみ之が爲めに變化するに非ざるを以て、其沸騰の模樣に依りては時として俄然再度の噴火を引起すことなしとせず、彼の寶永富士の出現、淺間岳の破裂等は此種類に屬す。而して此種の噴出は、往々舊孔よりせずして新たに噴火の口を生ずるは、蓋し舊孔よりも他の部分却て噴出に便なるを以てなり、富士山の舊孔今に其痕を殘しながら他の部分に向つて寶永山を現はせしは、此好適例として見るを得べし。

第三　原因

是は地中溶液躰の張力のみにては、未だ外面に破裂する程の勢を有せざるものが、海水河水湖水又は雨水等の浸入して地中の熱に觸れ、之に因て生じたる水蒸氣漸々量を加へ其彈力遂に地皮の重量と凝結力に打勝ち、驀然地皮の外に破裂す

るものなり、而して其概ね舊火山に於て此現象を現はすは、是亦舊火山は大抵地中の溶液體と其距離近くして、噴出に都合好き塲所なるを以てなり、我國の山岳破裂は此種類に屬するもの最も多きを占む。

概　說

凡そ噴火破裂には、以上の三類ありと雖も、其中又自ら破裂の順序遲速なくんば非ず。何となれば地皮は前にもいへるが如く、漸次收縮凝結せしもの、否今尙收縮凝結しつゝあるものなれば、古代に溯るに隨つて、地皮は益々薄く益々軟弱なりしこと言を俟たず、地皮軟弱なるだけそれだけ噴火破裂の地上に多かりしは勿論の事なるを以て、古代は第一原因の噴火多く、次は第二原因の破裂多く、近世は第三原因の破裂多く、漸次其破裂の勢を減じつゝあるは、素より爭ふべからざるの徵候なりとす、現に日本の山岳の如き、第一第二の經過を通し來りたるもの多きに徵しても、之を知るを得べし。而して其破裂の如何なる原因に屬するものなるやは、主として其噴出物に依りて之を察するを得るなり。

吾妻岳破裂の模樣

國會新聞に出でたる吾妻岳破裂の記事に據れば、吾妻富士の傍に淨土平といへる所あり、方五六町の高原にして中央に鹽野川あり、蘆其他の雜草一面に生茂れる所なるが、此處は昔の噴火口と見えて、四方には小峰壁の如く繞圍し、中には硫黃質の温泉噴出せり、是即ち矢筈温泉なり、此處の雜草今は破裂口より噴出する粘土の爲めに蔽はれて、一面の灰白色を爲せり。高原の中央矢筈温泉の北五六十間の所に一小圓池あり、盛んに瓦斯を噴出し、其近傍には大さ一抱もあるべき岩石、其處此處に落散りあり、此岩石は噴口より噴出せしものなれども、毫も溶解躰を認めざれば、是は只破裂の當時裂罅の巖石缺落ちんとするを、水蒸氣の力にて空中に拋上たる者なるべく、決して地下より噴出せる火山石の類には非るなり、噴口は吾妻山の中一切經山の南腹なる一大裂罅にして、方向は南北に長、其幅は南の方稍廣して、北に至に隨て狹し、裂罅の中に三個の噴出口有、南の方の者は昔より硫黃を取たる所にして、新に生ぜしには非ず、其中央の者は今回破裂せし者にして噴出の勢最鋭とし、其北に接して又一の穴あれど、是は噴出の勢甚だ弱し、其外硫質噴氣孔七八個あり、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

其樣恰も箱根大地獄の如し云々。

破裂の原因は何れに在るや

以上の記事に據りて、吾妻山の破裂が何れの原因に屬するやを講究するに、第一其地勢に由りて此山の元噴火山なりしことを知るを得るなり。何となれば淨土平の四方に小峰の圍繞せるは地質を調査せざれば明言し難しと雖ども或は昔此高原即ち舊噴火口より噴出せし物質の堆積したるものならむか、又其淨土平の今は噴火せずなりたるは、即ち第二原因の中に記す噴火の自然閉止したるものにして、其證據は此處に温泉の湧出づるにても明瞭なり。第二其噴出物の記事に、溶液躰のものに關する事なく、却て巖石などの飛散し居りて現に破口より水蒸氣を盛に噴出するを見れば、此破裂は決して噴火に非ずして、地下水蒸氣の彈力の爲めに起りたるものなるとを知るを得べし。已に水蒸氣の爲めに起りたるものなること明らかならば、是は無論第三の原因に由りて破裂したるものなることも亦贅言を要せざるなり。之を要するに舊噴火孔已に閉塞するも、倘地下の溶液躰は其勢を有し、加ふるに其邊の地質元噴火山たりしだけ其丈軟弱にして、噴出に便利なる所へ、雨水又は河水の次第に地中に浸入して水蒸氣と變じ、遂に其力を以て此一大破裂を起したるものなるべし。淨土平を流るゝ鹽野川の水脈の如きも、或は此水蒸氣を養成するの一原因を爲したるならんか。果して然らば彼明治廿一年同地方に於て一大慘狀を出現せし磐梯山の破裂と全く其軌を一にするものなり。去れど此度は幸にして破裂の箇所の人家に遠く、殊に山中の温泉場さへ未だ浴客の群集せざる折柄とて、一人の死傷者を出さゞりしは、同地方の爲に深く慶賀すべき事といふべし。

杜鵑　　伊藤仁齋

四月空山聲始悲、美人枕上夢先知、曉來何處情尤切、
雨歇雲間月霽時。

亡妻　　やかもち

かくのみに、ありけるものを、いとゞ吾も、
千歳のごとも、たのみたりける。
世の中は、つねかくのみと、かつしれど、
いたき心は、しぬびかねつゝ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

小説

春風裡

第四章（二）

トオストイ伯、著。
不知庵主人、譯。

自分の誕生日には神聖なる『サクラメント』の式を擧げむと豫てより計畫し、其日は逸早く會堂に詣で、歸るさに不斗セルギイ、ミハイエロウヰチを見掛けて馬車から下りると、渠は先づ自分を祝して一緒に家に戻ッた。

其日は渠の面前にあッても少しも窮屈なる思はなく我が心は物外に超然として大空に澄める月の樣であッて、セルギイも自分の變ッた容子に氣が附いたと見え、自分を極めて深切に極めて叮嚀に介抱り自分が「ピヤノ」の蓋を開けやうとすると、渠は此蓋を閉ぢ錠を下して『今日はお彈きなさるな、「ピヤノ」より貴孃の心の方が遙かに調子が整つてる』と云ッた。

此言葉を聞いて自分は頗る嬉しく思ッたが、同時に又當惑したは斯く脆くも自分の心を見透かさるゝ事で——自分の心の此平和を得たは元より深く秘めた事である。

食事の間にセルギイは、今日訪問したは唯自分の誕生日を祝するばかりでなく翌日モスコオへ向け出立する故其訣別に來たのであると云ッた。

渠はマカアに向て話したのであるが、其眼は恰も當惑の色の浮ぶを讀まんとする如く自分に向けられた。しかし自分は駭きもせず當惑もせず勿論其不在の日限を聞く事すらしなかッたは、豫てよりセルギイが早晩此言葉を吐き其癖決して此地を去らぬ事を知せゐたからで、何故だか自分にも分らぬが、兎に角是から起るべき一切の事を豫想し、過去より未來に貫徹する一種の夢を結んでゐた。

セルギイは食後直ちに歸らうとしたがマカアが其席を去ッたので告別の機會を失ひ、自分と共に庭に出て例の觀臺に行ッた。

二人は座を占むるや否、自分は忽ち二人が愛戀の運命を決定せんと話し初めた。如何して自分は此沈着と此自重を養ひ得たものか更に分らぬが、恰で他人が自分の聲で咄してゐる

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

樣に思はれた。

セルギイは自分と對座し、欄干に凭れて手に持てる連翹の小枝の葉を摘ンでゐた。で自分が咄し初めると其枝を落し手を前額に當てゝ度々氣を休めんとする如き躰であつた。

『何故貴所はモスコオへ行らッしやるノ？』と、じッと其顔を見ながら自分は訊ねた。

『用があるから』と俯向きながら左も心にもなき虚僞をいふを苦しさうに答へた。

『だッて貴所』と自分は云ッた『今日はあたしの爲には大事な日ですよ。あたしは何にも秘しやァしない――あたしは貴所を大變に愛してるンですよ、ですからどうしても貴所が傍にゐて下さらなけりやァいけないノ。何故行ておしまひなさるンだか、其仔細を云て下さい、是非云て下さい』

『中々其仔細は云ふ事ァ出來ん』と渠は答へた『此一週間といふものは貴孃の事から自分の事を色々考へて見たが、斷然モスコオへ行く事に決心したンです。何だッてそンなに聞きたがるンです、私を充分察したら其上深く聞て下さるな』と云ッて前額を手で摩り眼を覆した『私は中々憂ひ思をしてゐるンだ……お察しなさい』

此言葉を聞くと自分の動悸は激しく打ち初めた。

『いゝえ、あたしには少しも分らないワ。さァ何卒云て下さい、聞きますから』

渠は落附ぬ躰で自己の位置を變じ再び連翹の小枝を拾た。

『むゝ』と云て渠は平常のハキ〳〵した調子を得んと暫らく默して後『眞實を打明かす事ァ出來ンが、實は』と言掛けて手を顏に當てた。

『はァ』

『まァ考へて御覽じろ、爰に世の辛酸を嘗め盡した老人があッて、假に之を甲氏と呼び、又假に乙孃と呼ぶ妙齡の婦人があッたとして、此婦人は年も倘だ若し社會の事を少しも知らン者だ。處が家族上の關係から此二人が計らず一緒に暮し、初めは此甲氏は別に如何といふ考もなく自分の娘の如く思ッて愛してゐました』

爰で渠は暫らく默し、自分は更に一ト言も挿まずにゐると、頓て渠は口早に判然した調子で『處が此甲氏は乙孃が年若で社會を唯慰さみの如く思ッてる事を忘れてしまひ、ふッと自

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

分が愛慕の情を焔した事に氣が附き戰栗して恐怖し終に此愛慕の情が薄らぐまで分れやうと決心しました』と云て再び手を以て眼を蔽した。

『何故愛慕の情を起したからつて恐怖するんでせう』と自分は平素の通り少しも變らずに答へた所存だが、慥に此五音の中に弱ひ響があつたに相違なく、渠は再び餘義なさそうに、

『貴孃は年が行かぬ、私は年を老てる。貴孃の眼には人生は遊戯である、私には極めて眞摯な野暮なものだ。だから私らと一緒になるは頗る不得策である事は他日貴孃が氣が附くに違ひない――と甲氏は乙孃に答へたかも知れぬ』と一言添えて、『さァ是で私が貴孃に別れるといふ理由が分りましたらう、どうかもう云て下さるな』

『いゝえ〳〵まだ云はなけりやァ分りませんワ、』と涙に聲を曇らせながら自分は答へた、『本統に貴所云つて下さいな――其人は其女を愛してゐるんでせうか、ゐないンでせうか』

セルギイは返事をしなかッた。

『若し其人が其女を愛してゐませんのなら、何だッて丸で子供の樣に其女を遊び物にするンでせう？』

『全く甲氏が惡るかッたンでです』と渠は答へた、『しかし甲氏は終りを潔よくして朋友となッて別れました』

『ひどひ事ネ。他に如何かなりさうなもンでしたネ』と自分でも驚くほど聲を變じて云ッた。

『それは有りましたらうとも』とセルギイは答へた、『是ッきりーきやァ云ひませんから能ゥくお聞きなさいよ。甲氏は心から愛すると云ふ事を乙孃に咄すと、乙孃は笑て詼謔だとしちまッた。そこで甲氏は狂氣する、乙孃の爲に詼謔と見えるものは甲氏の爲には辛い浮世であッた』

自分は此時戰栗して辨解しやうとするとセルギイは遮ぎり留め、

『まァお待ちなさい』と震へ聲で語を次ぎ、『或る人の咄では此乙孃は甲氏に對して不愍の情を起したさうだ。處が乙孃は人生の事を何も知ぬから、そこで自分の起した不愍の情を以て愛戀だと誤解して、終に結婚して見と――此甲氏、元來馬鹿な男で結婚さへすれば女も男も花咲く春に逢ふ事と豫想したも大變な相違で、諸共に一時の迷であッたさうだ。しかしモウコンな咄は止にしやう』と言葉を結んで暴らかに歩き

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

初めた。
渠が最後の言葉は『こンな咄は止めにしやう』といふのであるが、勿論自分の言葉を待ちつゝあるは歴然たる事で、自分は一ト言云はうと思ッたが、さて何と云出すものやら思案が附かず、そッと渠を見ると、顔色は失せて唇は震へてゐた。
　自分は一生懸命に震へる聲を漸く染り一期の大事と屹となり、『それから畢竟其人は其女を愛さないンで、其女を悲しい目に遇はして置いて自分は好い氣になッてるンでせう。其人は其人の意地を通して立派でございませうが、其女は可哀相ぢやァありませんか――貴所も行ておしまひなさるなら御勝手になさいまし、貴所は何のとお思ひでせうが、あたしは中々平氣ではゐられません。あたしは貴所を愛してます、とうから貴所を愛しく思ひました――はい、貴所を愛してます』と自分すら驚くほど聲を振染ッて云ッた。
　セルギイは自分の前に突立ち、青白い顔でじッと自分を凝視めてゐたが、段々唇が震へ出し、暫らくすると大粒の涙が頬に傳はッた。『貴所は痛い方だ』と涙に咽び聲を枯し殆んど絶入るかと怪まるゝほどで、自分は席を起て去らんとすると、セルギイは突然跪いて、震へる自分の手を取て接吻し、涙は潸々として自分の手に灑いだ。自分は滿腔ただ嬉しさが込上げて四邊は雲に包まれしが如く暫しは魂魄に離れた樣であッた。
　五分間程經つとソオニャは二階に駈上ッてマカァの許へ行き、全家に響く程の聲で、家の姉さんはネ……セルギイさんのお嫁になるンだよ』

○神は平民を好み玉ふに相違なし、何となれば、世に平民を置き玉ふこと、尤とも多ければなり。
アブラハム、リンコルン。

○人もし其兄弟の爲め番人なりとせば、まして況んや、其姉妹の番人たらざることかある。
ゼヲヂ、マクドーナルド。

○靈魂の難める時は、これ人生の一大時節なり。好機會、最要樞みな此時に存す。人の墮落するも此時。左れど若し神に向はば、其一生の大紀元となるべし。
フヒリップ、ブルックス。

家政

子供に付て（二）

しづ子

子供の家庭教育、即ち母親が理想通り美事に子供を仕立様といふのは容易ならぬ事業で、學理に通じ、經驗も積んだ先生方が、大きな書物に精細な議論をしてお置なさることですから、私などはさういふ六ヶ敷議論は措いて、たゞ平常見聞したふし〳〵や、自分が子供で有つた時迷惑したことなどをお斷しゝて見て、幾分か、人さまが思ひ當つて下さるのを十分に存じます。

私が九才位の時でした。學校友だちに縮緬細工の香箱を貰らひ升た。丁度此時分、人が奇麗な小切を集めて持つて居るのを見て、ひどく羨しく思つて居升たから、家へ歸つて其香箱に粘つた緋の絞縮緬や、淺黃縮緬をつく〳〵眺るにつけ、箱よりか切の方が欲しさに、小供のことてあとさきの考なく、手の平ほどもない其切を無雜作に、剝とり升た。そして厚紙の殻は流石面目なかつたと見へて、丸めて本棚の後ろへ匿して置き升た。折の悪るいことには、此日、私は養はれて居た家の實の娘に何かしたとか、いつたとかで、御機嫌を損こねた時故、私ども兩人を育てゝ居た婦人（母に非ず、子を持しことなき人）が、早速私のいたづらを見つけ、義理ある姉と口論つた上句の癇癪と一途に思ひ僻め升た。權幕の恐ろしさに度を失なひ、ろく〳〵辯解の出來ない中に、私を責摧するとて紐でくゝり升たが、私は思ひちがへられた辯解つまり立たぬと諦めて、それなりに過してしまひ升た。併し、子供心の當惑と口惜しさは、今に骨髓に浸み徹つて忘れられません。」さりとて此婦人は決して亂暴な方でもなく、私には寧ろ深切な人でしたから、此時の處置は、全く子供を躾ける義務として得意に致したことでした。全く事物を調らべない粗忽の爲かといふに、一通り私の申譯も聞いたのでしたから、必竟私のいふことを信じない爲でした。なぜ信ぜぬかといふに、私は別段噓をいふ僻のあつた方でない處から考へ升と、二寸三寸の小切が欲しさに、美事な香箱を破すとは、まさかあるまいと獨斷して、私の分別の薄い度合は知らず、幼な心の可愛らしひとお

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

もへば思へぬとのない嗜好に、同情を持つとが出來なかつたのでした。一口にいへば、思ひ遣りがないので。思ひ遣るとを知らなかつたのでした。

凡そ子供の躾をするには、同情をもつ、思ひやるといふとが何より大切かと思ひ升、三才兒なら三才兒の身になつて見、七ツなら七ツの兒の心持になつて見なければ、到底子供の爲になる躾は出來ぬのみか、却つて其性質をゆがめてしまひ升。

それから又、子供の横着なのと過失とを見分るとに餘程氣をつけてやらねばなりません。そゝうは誰にもあるとゝ、それにウツカリ鑑定を違へ、子供が構へて故意にしたとの様に叱り升すれば、子供の心に徳義上の觀念を植つけるとは、全く出來ぬ譯になります。子供を躾る目的は申すまでもない、立派な機械にしよふといふのではない、品徳の立派な氣立の好い人間にしよふといふのですから、行儀作法などのとはなる丈大目に見て、これこそ徳義上の敎へをする塲合と確と認めをつけた上で、深切に徐々に子供の心によふく合點の行く様に敎へたいと、存じます、決して狼狽する所では有ません。

太郎は花子と遊んで居升、其中花子が大聲に泣立る、母親が何とと走せつける、花子は「かやちやんが」と喚く、母はあはてて太郎を叱り飛す、「おまへおぶちだらう」と怒鳴る。其實、太郎は妹と遊んで居て、過つて花子を痛くしたのですが、それ丈の申譯は子供に出來ません、自分さへ遊び興じて何が何やら譯の分らぬ中に、いつも母上にどなりつけられたり叩かれたりし升から、花子を氣の毒に思つたとも忘れてしまつて「おつかさんがまた怒つた」位の考しか殘りはいたしません。

子供は中〳〵ぞんざいなものです。併し水をこぼすも茶碗を破るも、みんな稽古中のとで、私ども多年そゝうにそゝうを重ねて、漸くこれ丈に普通の物とを覺へたのですから、其考へがなくては、實に子供が可愛さうです。子供が過やまつて大切な道具を破したからといつて、容赦なくポンと横つらをはるといふ様なとは、よく見るとですが、子供は本の不注意をした計りですが、其親こそ却つて癇癪が抑へ切れないので、牙をむき出す犬や、背を立てゝうなる猫の眞似をした様なものなのです。自分は隨分其時の心持次第で、勝手なとをする。子供丈はいつも謹しんで折目正しいとをさせ度。さうせねば大罪を犯したと同じ様に責槛するといふを以て、躾とはどふ

しても受けとれぬことです。子供は存外素逸いもので兩親が行と言葉の揃はぬふし〴〵や、勝手氣儘な申條をすることなども、追々に承知する様になり升から、自然兩親を下に見る様になり、從つて兩親の威嚴は全く消えてしまひ升。

○筍の酢漬を製する法　よね子

筍の酢漬を製するには、極めて若き柔かなるものを適當とす、未だ土中にありて僅かに芽を出したるものを堀り採りて、之をよく洗滌して、皮の附着せしまゝ瀹きて后之を引上げ水中に投じて、其未だ全く冷却せざる中に皮を美麗に剝ぎ除くべし、已に皮を剝き取り終らば利刀を以て之を適宜に截斷して、更に清水中に浸し置くこと二時間餘して水中より採り揚ぐべし。これは筍に含有する剝篤亞斯を水中にて溶解せしむる爲にして、剝篤亞斯は蓋し人躰の健康に多少の患を爲すものなればなり。而して之を桶或は箱の如き器に入れ、食鹽多量を加えて鹽漬となし、上部より重量を以て壓し置くこと四日乃至六日間、然る后恰も海水の如き鹽水を沸騰せしめて、之に投入し煮ること暫時にして引揚げ、更に細片に切りて清潔なる壜に裝塡すべし、但し罐詰にするときに當り丁子と蕃椒の二品をば層々に混入すべし、この二品は苛性を筍に附着せしめ、一は香料を與へ風味を佳良にするに過ぎず。丁子と蕃椒は豫め生酢に投じ之を鍋に盛り軟火に掛け徐々沸煮すること暫時間而して其二味を供用するを最良とす。已に裝塡せし壜に右の煮酢を紙にて漉して之を注入し栓を以て口を密閉すべし、是を貯藏するには玻璃器に限るべし、斯く成したるものは永く味を變ずることなし。

○甘醬の製法　よね子

甘醬を製するには、赤葡萄酒二盃、白砂適宜、玉葱の薄く切りたるもの一個、之に少量の肉桂を加へて凡十五時間程煮詰むれば精良なる甘醬を得べし、之を燒きたる肉などに注ぎて食すれば美味を添ふべし。

○蓮根を砂糖漬に貯ふる法　よね子

蓮根を糖藏にするには、よく洗ひ厚さ三分許に輪狀に切り、鍋に清水を入れて切りたる蓮根を投入し、煮ること三十分間にして、笊籬の中に取り揚げ放冷して鍋の中に濃き砂糖の溶解液を容れ、夫より切りたる蓮根を入れ適宜の火にて煮れば、糖汁煮詰りて少許となるべし、此時蓮根を陶器に取り揚げ其

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

器を傾斜して、その糖液を低き方へ流れしめ、此液汁を別器に貯へ置き兩製に用ゆべし、右陶の上には布を被ふて三日許り陰乾にし、而して器中に入れ口を密封して貯ふべし。

食物養分比較表（其二）

百分中	水分	含窒素物	脂油	可溶無窒素物	灰分
鰊鯑	七七、六	二〇、六	一、三	—	一、五
鯛	七七、八	一九、〇	一、九	—	〇、四
章魚	一八、八	七三、一	一、三	—	一、八
鮎	七七、〇	一八、四	一、四	—	六、二
ムツ	七四、七	一八、〇	六、二	—	一、一
鰻	六九、二	一八、一	一一、五	—	一、一
鮪（脂多キモノ）	七一、八	一五、八	一〇、六	—	一、八
鮪（脂少キモノ）	七七、〇	一七、一	四、五	—	一、四
鮒	七九、五	一七、九	一、五	—	一、二
鰤	七五、四	二三、〇	一、五	—	一、二
鰶	七三、三	二〇、四	四、八	—	一、五
鯉	七〇、九	一八、九	〇、八	—	一、四
香魚	七八、九	一七、七	一、九	—	一、六
鰺	七六、七	二一、〇	〇、八	—	一、五
アンコウ	八五、九	一三、一	〇、一	—	一、〇
針魚	五六、九	三九、二	一、六	—	二、四
鯖	七二、五	二一、一	四、九	—	一、五
馬鮫魚	七七、八	一九、二	一、七	—	一、四
鮫	七三、六	二一、八	〇、五	—	一、一
鱚魚	八〇、〇	一八、一	〇、六	—	一、三
塩鮭	六一、六	二六、一	三、一	—	九、二
塩鱈	七七、七	一八、六	〇、二	—	三、六
シロ目刺	五四、七	二九、二	六、二	—	五、九
鶏毛脡	四四、五	四九、六	二、一	—	三、八
芝鰕	七八、五	一九、〇	一、〇	—	一、五
鱠殘魚	七九、四	一八、七	〇、三	—	一、五
比目魚	七九、三	一九、二	〇、五	—	一、一
螟脯乾	二一、一	六九、五	三、二	—	六、二
鱸	七七、七	一八、六	二、六	—	一、一
牡蠣	九〇、〇	八、五	〇、九	—	〇、八
蛤	八四、一	一三、二	〇、八	—	一、九
石決明	七三、〇	二四、六	〇、四	—	二、〇
魁蛤	八二、〇	一五、八	〇、五	—	一、七
蜊	八四、一	一三、二	〇、八	—	二、〇
蜆	七九、六	一八、四	〇、八	—	一、二
田螺	七九、六	八、一	二、〇	—	四、七

（二）植物質食品

	水分	含窒素物	脂油	可溶無窒素物	纖維	灰分
洗米	二〇、一	六、八	〇、三	七二、〇	〇、四	〇、四
米飯	六四、八	三、二	〇、五	澱粉三二、二 葡萄糖〇、〇二	〇、三	〇、二
餅	四六、八	五、二	〇、二	四七、六	—	〇、二
水洗大麥	一二、四	一〇、〇	一、六	七三、〇	一、六	一、四
麥飯	七六、一	三、八	〇、二	一八、七	〇、八	〇、四
粟	一三、三	一一、六	五、六	六五、三	一、七	二、六
黍	一三、六	一〇、四	三、六	六九、八	〇、九	四、八
稗	一三、二	九、〇	一、〇	七三、〇	三、〇	〇、八
小麥粉	一四、七	一三、三	一、二	六九、七	〇、九	〇、七
蕎麥粉	一二、九	一三、一	二、七	六八、七	一、二	一、四
日本食パン	三七、八	七、〇	〇、一	五三、五	一、〇	〇、七
黒豆	一一、一	四〇、三	一八、三	二二、〇	三、九	四、六
白大豆	一三、五	三六、七	一七、四	二四、九	二、五	五、〇

（一九）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

田家のこよみ

畜耕子編

○夏至六月廿一日○乃東枯○菖蒲華○半夏生

○六月十一日より六月卅日迄農事

○播種　胡蘿蔔、夏蕎麥、黍、秋栗、秋小豆、霜豇豆、蠶眼豆等七月上旬迄に播きてよし、

○移植　柑橘類、竹類、麥、葱、移植してよし、

○挿木　優曇鉢、金鈴桃、珍珠花、麻葉繡、迎春花、錦鷄兒、蜜爪、澤賑、小檗花、闌鞍桃、等挿してよし、

○雜事　此月は梅雨年中最とも降雨多ければ、家畜の仔兒、家禽の雛等に雨に濡れたる嫩草を過料に喰はしめ或は水分多き飼料を多料に與へざる樣注意すべし、降雨に冷氣を添え雛の元氣衰えたる時には、小米引割麥なさを精酒ニ浸し與ふれば回復すべし、

○園藝法

花萌芽生成の後枝條を過半截去すべし、此法を施すさきは枝條の容積減少するを以て、果實に注流する處の津液其量を增加するが故に肥大なる果實を生するなり、又夏季發生せる枝條は樹形の成育に必要なるもの丶外は、凡て其嫩芽の生するに從て摘除すべし、此法を施すさきは新芽をして過量の津液を吸收せしめざるを以て、其果實を肥大ならしむるを得るなり、

又花萌芽將に開綻せんさするさき肥培法を施すべし、然して肥料は充分腐醸せるものにして果實生成に緊要なるべし、即ち過燐酸石灰及び木灰等の如きもの之なり、

第十五　果樹蕃殖法

凡そ樹木を蕃殖するに其種子を蒔きて苗木を生長せしむるさきは其形躰及び資質等を變化するの傾向ありて、母樹さ同一の變種を得るを甚だ稀なり、故に改良したる果木を蕃殖せしむるに當り、其種類に固有の形質を保存し、其原種に悖戻するを防がんさ欲せば種子の蕃殖に由らず、接木法、揷扦法、壓條法等を用ゐるを良法さす、接木法は次號に於て之を記すべし、

笑ひ草

かあちやん………太郎は風を引いたつてゐたりまへですチ、毎晩〳〵お布團をすつかりはいでしまうんですもの、なぜさうだらうチ、

太郎………かあさやん、なぜだか僕知つてないよ、今迄寐てるから知つてないんだ、かあちやん寐てる時聞いて見て御覽。

○○丸の甲板上安樂倚子に捲煙草ふかしてつれ〳〵を遣る紳士三四名婦人の乘合少きを幸ひ、女の己惚れといふ事を談柄にして毎度見聞したる例しなど可笑げに語りて笑ひに興じけり耳を澄して聞居たる婦人傍より

本におはなしの通り己惚れは婦人につよくて、男子方には實に少ない樣です。今一寸皆さまのかふして入つしやる處をお見うけ申しても、格別お立派で入つしやるお方がお襟かざりを倒まにつけて入つしやる位ですもの。

婦人は冷やかに笑みぬ、何故となれは、紳士はわれも〳〵と襟に手をあげたればなり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

隨感

○漫に白雲をながむるの輩

過を正し、道を修せんと言ふ人、たゞ、かく言ふのみにて、漠然として、日を過すもの少なしとせず。夫れ、過ちに過と稱ふる一つのものあるにあらず、速やかに心掛け、事々に用意せざれば、万事續々として皆な過とはなるなり。道と云ふもの、亦何んぞ、道として存せん。目前、足下、一々に爲す所の事、之を正しくし、之を完くするを以て、則はち其道とはなす、何んぞ、殊更に一つの道なるもの凝固して存せんや。愼しみは、事々にあり。達德は、歩々の實行より生ず。漠に望み空に賴みて、只管らに改悟行善に志ざすとも、百年遂に其効ある可らず。古人云く、老來りて始めて道を行ぜんと待つことなかれ、古き塚多くはこれ少年の人なり、はからざるに病をうけて、忽まちに此世を去らんとする時こそ、初めて過ぎぬる方のあやまれるとは知らるなれ、あやまりと云ふは、他の事にあらず、速にすべきことを緩くし、緩くすべきことを、急ぎて、過にしことのくやしきなり、其時悔ゆとも甲斐あらんや、と。

○優しき覺悟

情けは、算數の外にあり、理を以て之を割出すべからず。愼しみは、必要以上に存す、冷やかに其度を評すべからず。余、優しき乙女の「たしなみ」を見て、言ひがたきの美に感ずること切りなり。會ふのうれしきに、わざと隠れ、毫も疚しきことなきに、顏を紅うするの類、豈これ尋常の感ならんや。愼しみの恥は、道德上の恥の外にあり、「たしなみ」の、覺悟は、勇氣度胸と日を同ふして語る可らず。言を烈しくし、情に激するは、万、止むことを得ざればなり、喩えば、水、巖に割れ、風、梢に裂けて、則はちすさまじき響を發するが如し。若し夫れ、變なきの常の時に於ては、水、洋々として平らかに流れ、風、叙々として、靜かにそよ吹くこそ麗はしけれ。婦人の涙なきは、大旱に潤ほひなきより燥けり。もし、其胸中より、一片の優しき情を欠かば、春天、惣べて花を殺し、秋夜悉とく月を失なひたらむより、倘ほさびしかる可けれ。昔し、李夫人、漢の武帝と、交はり濃やかなり。一夜もし相見ざれ

ば、千秋の如し、一言も交へざれば、死せる心地やしぬらん。而して、夫人病重く変かわれるとき、終に臨みて遂に、帝に見へず、強ひて請はるゝを、強ひて辭し奉つり、枕上、涙雨の如く、万斛の恨意くめども盡きず。たゞ、其姿の變れるを見せ奉つりて、なき后に果敢なき御覺を久しうせんとの苦しとて、百年の歎きを千歳の苦にかへて、遂に見みえ奉つらざりき。万代の下、われは、尙ほ其優なる心根に泣かずんばあらず。

○勤儉の健やかなるもの

勤と儉とは、身を約するの綱なり。之なくんば、心散慢として、取締りなく、万事、闘鹵不規律に陷いり、災厄遠からずして、身に迫まらんとす。然りと雖ども、勤と儉とを重んずるの本意亦た戒しめ愼しむ所なくんばある可らず。若し單だ己が財を蓄へん爲に、儉し、己が身を立ん爲にのみ勤するとせば、未だ可ならず。もとより、蓄財、立身の不可なるにあらねど、單に之を自己の爲めにのみするを宜からずとはおもふなり。彼の役々として、水田乾土の内に汗を滴たらし、雨にぬれ、風に痛みて、日夜息ふ所なき貧しき農夫を見よ、亦た、家に厄介の人多く、心に憂ひ煩ひ絶へず、子寶澤にして金錢ます〳〵乏しく、たゞ忙々として日を夜に續ぐの役者を見よ、吾等何によりて獨り怠慢遊惰に日光を費やすとを得ん。又、彼の貧しき人を見よ、衣は着るに寒く、食は食ふに足らず、病んで藥の料なく、死して葬むりの貯蓄あるとなし、一錢を十に割りて之を寶とし、廢物を集めて而も之を用とす、吾等つく〴〵と其姿を見れば、憫れみに堪へず、密かに身の絹衣を顧りみて、空恐ろしき心地す。食膳に向ひて、二品の味ひあるとき、寒くして暖を取り、暑くして涼を得るの便りあるとき、病んで遣るくまなく介抱を寄せらるゝの友あるとき、吾等何んぞ世の遣る瀬なき人々の爲めに恐懼し又慚愧せざらんや。吾等そも〳〵何の功ほしありて、此の恵をば受けたる。一天の下、人に高低なし、全地の上、人に輕重なし。生れて偶然の好運に會し、教へられて幸わひの賜物を得たり、も、吾等之を自己本來の所有權なりとすると能はず。嗚呼、此を以て、今ま不自由なく暮らし、悲しみなく一家相睦めるかの貧人と極忙の役者とを思へば、心惶々焉として恐る。此に於てか、勤儉の念ひ沛然として起る。私利、營家の爲めに

構え造るにはあらざる也。吾等が勤むるは、義務なり、吾等が儉やかにするは、報恩なり。而して、勤儉によりて、別に得る所あらば、之を他の爲めに利用せざる可らず。既に、身を約して、心引立ち、精神爽快の情あり、尙更らに他の爲めに盡すと感じて、希望、勇氣、勃如として起る。之れ、勤儉の健やかにして正しきものか。勤儉此處に至らざれば、一種の利己也。利己の重なる處は、醜汚也。亦何んぞ貴むるに足らん。吾等希はくは、斯る卑賤の心掛をば有たじ。

○獨默のたのしみ

人は相語るの友なかる可らず。然れども、語らんか、同情を寄するの人なく、訴たへんか、身を傾むくるの人なし、叫べども、聞くものなく、聞くも、其情を察せざれば、默するに若かず。泣くも、涙の心を知る人あらざれば、則はち顏を收むるの外なき場合あり。之を苦しとせば、苦し。左れど、苦中亦た樂境なきにあらず。心にしめて、月花に對し、靜默して虫吟に思を遣るとき、万斛の胸の涙、全身を潤ほして、亦一種の味あり。われは、之をしも亦た樂しみとせん。

○涙の人

輕々しく泣く人に眞の涙あるものは少なし。眼より落す其の水は、夏の朝、天より下る雨の淸きに及ばず、又、夏の夕、草頭に置く露よりも、床しからず。われは、此の空々しき輕薄の涙を惡む。たゞ、慕はしきは、眞涙ある人なる哉。其眼强ひて、乾けども、熱湯其うしろにあり、言語殊更に少なしといへど時に千万無量の情あり。其思ひ、マナよりも甘まく、其かほり、香栢よりもかぐわし。われは、斯る人を慕ふ。彼に、百の欠點ありと雖ども、涙之を埋め滿たし、澤々として佳なり、われ其の欠を見るとなし。涙とは、夫れ、情を搾り、心を煮つめたる濃き油らなるか。涙とは、夫れ、人靈の愛、脫然醜骸を離れたるの姿か。人は云く、人世、つれなく、人情、紙よりも薄しと。然り、世上、千万の輕薄者あらん。されど、一人の眞涙に接すれば、われは、之を以て人間の價値をいや高く感ず。一と度び、眞の涙を見れば、人生を疑ふと能わず。人の情は、眞とに誠實なり、其愛は、純白なり。われ、如何にして、之を疑わんや。あゝ、茲に至りて、戀せざる人の、心さびしきに思を遣るなり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

通信

淡海子編

●京都通信

◎京坂神婦人聯合祈禱會　我等が待ち望みし京坂神婦人聯合祈禱會は去月五日を以て、京都平安教會に開かれたり、今其概況を記さんに、午前九時三十分の時針を指すや、日本基教會の阪口夫人司會の席に着かる、讚美祈禱を以て會を開き、次にミス、ウエンライト孃、及び同志社女學校諸姉の喨瀏たる彈奏唱歌ありて一同精神に爽快なるを覺えぬ、此時司會者の紹介を以て、同志社の博士市原氏舊約書中創世紀二〇廿一を題として、婦人の大責任あることゝ而して主に因て之を盡くし眞正なる社會改良をなさんことを、次に海老名彈正氏同く婦人の任務の重大なることを懇々說示せられ、最后に阪口夫人の歡話あり、六名の姉妹の熱禱を以て閉會せらる時正に十一時半此日各教會よりの來會者一百三人、全會集三百有餘人なりし、晝食の饗應は洛東三本木櫻にて委員諸婦の盡力に因りて來會の諸婦に馳走ありたり、午後三時再び新島未亡人の司會、トオカツ孃の勸話あり一名の姉妹の祈禱を以て芽出度閉會しぬ。席上岡山孤兒院、大阪救兒院の報告あり、三人の可憐なる孤兒の唱歌は滿場を動かし、盲啞院生の琴胡弓の合奏は精神を清からしめたり、

●宮城縣通信

◎仙臺の十傑　當市の東北日報の募りたる仙臺の十傑は左の如し、以て仙臺人士の意傾識見みるべし

兵事家 大槻少佐、政事家 富田鐵之助、宗教家 大內青巒、儒學家 伊達男爵、冒險家 橫尾東作、教育家 大槻文彥、匠家 木村達、法律家 飯田宏作、畵家 山內耕烟、

因に云ふ、橫尾東作氏は、福島中佐の師なり。又宗教家には、新妻ポーロ氏、小野田ペテロ氏あり。

◎仙臺市の勸業老翁　北四番町の武田紀次翁は勤王の志厚く、維新の際の如きは屢々言ふべからざるの苦辛を嘗めて國事に奔走し、遂に王事の爲に獄に下さるゝに至るまで王事を勤めたる殊勝の人なるが、今や四海波揚げざるの太平となりたれば、實業に勵みて、國土を肥やすこそ王に勤むべき本主なるべしとて、熱心一意に蠶業を精勵せられしが、此頃當市東二番町小學校女子同窓會に蠶簇五十枚寄附して、女子に蠶業奬勵せりと云ふ、此五十枚の蠶簇は昨年の蠶後より日々少しづゝ翁自から日夜勉めて編みしものなるよし、此古稀を越えし翁にして已に此美事あれば當市の人皆之を感じ合えり、

◎貞女　當縣黑川郡吉岡町二百五十一番地平民、和泉忠吉の妻、せいは其夫の七年間病蓐にあるものを、貞實に看病せし非凡の貞烈を顯したりとて當縣知事船越衛氏より賞狀と金子を下賜せられたり、

◎仙臺藩士の懇親會　は去月廿五日開席せられ來會者一千二百有餘名、其時數番の演說及び擊劍ありたり、又婦人の薙刀の仕合もありき、殊に婦人の薙刀は喝采なりしと云ふ、

◎石川邦光氏の北海道移住　同氏は家臣二百有餘人を率ひて北海道に移住せらるゝに付、當市有志者は同氏に梅干などを寄附するもの甚だ多しと云ふ、

●高知縣通信

◎教育兒　高知育兒會に於て去四月中教育出願許可せし妊婦は十二名にして、其出產にかゝりし者は九名なりと、

◎幼年囚徒　高知監獄署に在る十六年以下にして學房に在る現在囚徒は二十二人にして、孰れも竊盜犯罪者なるが大概再犯以上の者なりと當路者の最も注意を要する事件なり、

◎師範生　高知師範校の男女兩生徒は、去る十二日長濱海岸にて運動會を催せる由、

◎土佐女學校　目下生徒の數は三十名に足らざれども教員諸氏の盡力にて追々進步すべし、現に此校に職を奉ぜらるゝはスターリング、土田、藤田の三女史柏井、田岡の兩氏なりと、

女報

淡海子編

●明治女學校の地久節　同校にては去月廿八日例年の如く　皇后陛下の地久節の祝會を擧けられたり、今其概況を記さんに、同日午前七時三十分同校講堂に於て其式を擧げ、初め講師教員諸氏の謹嚴なる祝演あり、次に各級生徒總代交々と和文和歌等を朗讀し祝意を表し奉り、終に高等科生徒の新作　陛下を祝する爲めの歌を合奏し最とも尊嚴靜寂に此式を終りぬ、

●婦人の交際　と題し去月廿八日朝野新聞に掲げたり、近來新聞紙多くは女子交際に就て一二の差誤を捕え來りて言を設けて誇大にし之を非難す、女學生とし云はば蛇蝎の如く惡口するに拘らず、毎度朝野記者が新日本婦人に付親切の淺からざるを感謝す、今拔載する所の婦人交際の一項編者今飯に是非の評を止め全文を掲げ以て大方の讀者が判考に任せんのみ、

婦人は內を治むるの任に當るものなれば世間の交際は入用ならざるに似たれども女も等しく人間なれば、獨り人間世間と隔離して終日終年一家の裡に蟄居せるの謂れあらざるのみならず、人の智見は交際上より開發し來るもの案外に多きの常なれば、小兒の教導者たり、家事の主任者たり、男子の內助者たる重任を擔へ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

る女子をして交際以外に蟄伏せしむるは賢き人の棲む社會にはあるべからざる弊事なり、嘗て邦人も此に見る所あり、女子の交際も漸く萌芽を發せんとするの氣運に向ひしが、不幸其間弊害百出して今は只基督教仲間に於て僅に餘喘を保つのみ、誠に遺憾の次第にして余輩は女子交際の再び萌芽を發し、健全の發育を遂けんことを希望するものなれども、之を希望すると同時に、誡しめざるべからざることは其交際の華美に失して其實を失ふこと是れなり、聞くが如くんば西洋の交際社會は互に華美を競ふて其入費も少なからずと云ふ、斯くの如きは余輩の固より希望する所にあらず、余輩の希望する所は廣く日本婦女子の蟄居主義を打破して交際動物の籍に編入せしむることなれば、若しも女子交際に華美を競ふて衣服飲食に莫大の費用を要するが如くんば交際とは唯二三貴族の贅澤に過ぎざることゝなりて一般の婦女子は矢張り交際以外に立たざるべからざるのみならず、衣服飲食の華美を競ふの結果は往々女子をして輕薄巧佞に流れしめ、貞實淑の美風を損傷せしむるに至るを免れず、是れ大に謹まざる可らず、故に女子交際の先達者たらんものは深く此に注意する所ありて、手輕るに質素に相往來し、相會談するの模範を開き以て女子の天性を損はざるの道に出でざる可らず是れ女子交際の發育を計るに於て最も肝要なる所なるべし

●貞婦　石川縣河北郡山近村千石茂德氏母とふ子の貞實孝養を賞し此程三間石川縣知事より左の如く金一圓五十錢を下賜ありたり

元治元年同家へ嫁し爾來夫に對し貞實に殊に姑に事へ孝養を盡すこと三十一年一日の如し其志行寔に以て奇特とす依て爲其賞金壹圓五十錢下賜候事

●進德女學校　從來寄附金授業料等により職員の盡力にて維持し來りたる處漸々盛大となり教師の雇人等を爲して次第に改良しつゝある由なるが、今回學科を改正し不日其筋の許可を得次第私立高等女學校を改稱し各府縣の高等女學校の如きものと爲すの企ある由序に記す八九日前も四名程の新入學生あり目下六十七名の生徒ありと、

●節婦へ賞金　大坂西成郡粉濱村三百三十四番屋敷黑井松之助の妻たみ(六十三)と云ふは、舊松屋町にて出生せし者なるが幼年の頃蕩放なる父の爲めに母と諸共に置去りにされ、其後實母もお民の九歲の頃世に亡き人の數に加はり、其翌年或人の周旋にて住吉郡澤口村の農家へ雇はれ二十年の星霜を大切に奉公せしかば、雇主も其實躰なるを見て目下の亭主黑井松之助方へ三十歲の齡に嫁入せしに、此松之助の身持甚だよろしからず殊に多病なれば蟲に二人まで子を擧げしも皆死亡し、今は三人目の悴岩吉と云へる者に嫁を貰ひ居るが、此のお民若かりしときより夫が梅毒に罹り身躰自由にならざるを勞はり看病に手を盡し、且つ困苦の中より我子を養育し、三十餘年が其間は三時に起出て家事を助け雜菓子を售り雛を飼ては其卵を商ひ節義を守る事一日の如きを以て、知事より今度同女へ金一圓の賞與を下附されしと云ふ(大坂每日新聞)

●近江婦人慈善會　同支會に於ては規則第三條に據り、救恤規則十二條を制定し本月より鰥寡孤獨及癈疾不具者等にして目下糊口する能はざる極貧者に食料を救與するよしなるが、何分限ある資金にて限なき救助を行ふに付目下會員募集に盡力中と

●園てる女史　女代言を以て一時都下に名高く、磊落不羈夏時一襲の單衣手拭を肩にして湯屋に入るや、一氣兵兒帶を脫して衣裙と一丸棚裡に投下し、去つて揚々板間を濶歩し、小桶を一轉して之れを腰にし、パンツサン洗しだの一撃に凡婦をして後に瞠若たらしめし園てる女史は渡米せりとの噂以來近頃聞く所なかりしが今は突然英京倫敦ウエストミンスター、ガゼツト紙上に其消息を聞けり、こは該記者の女史現寓同市南ケンシントン、コロンエル街十三番館を訪ひし記事なり、其所載に依れば女史は渡米後貯金預先の銀行倒產に依て大に悟る所あり、代言業の一方を利すれば必ず一方を害せし報と諦、左程苦にもせずして幾多薪水の勞苦を經遂に基督教に入て傳道諸學校の諸孃に交り邦語と英語を交換して、はては宗教上にも力を盡しムーデー、サンキーなどいふ當時北米に有名の宣教家にも相見るを得、こゝに日本高等女子教育の事業を企畫し自己の名義を以て大に義捐金額を集、さてはブルツク氏の勸に應じ倫敦に至り、夫の女學校設置資金募集に勉めつゝあるなり、其記事中女史は日本の貴族に出で父は學者にて、曾て大藏官吏に嫁し居ること三年にして、日本の風習の如く離婚なせしとあり、彼の渡邊小太郎氏と結婚せしことならんか、又日本に女の代言は女史が空前絕後なり、そは日本は憲法發布以來女子の辨護士を禁ぜしを以てなりとあり、記者との談話中には五月には歸朝するよし云々改進新聞に見ゆ、

●女子實業科傳習所　仙台市大佛前なる女子實業科傳習所にては目今四十餘名の生徒を有し居るも、其經濟に於て許さゞる所ありて、爲めに發企者なる伊藤榕齋氏が每月教師の給料を一人にて負擔し居らるゝよし、併し自今猶此儀にあらんには伊藤氏と云へ限りある財產を以て到底維持し兼ぬることなれば、此際斷然各贊成者と協議の上同所維持上のことを取極めらるゝ見込なりとか、

●賣淫取締　橫濱居留地內の洋酒屋は來る客が治外法權なるを幾分か楯に取り若い女を雇ひおきて外國人へ賣淫を爲せけるが過日來警察署より一同を招集し風紀矯正上怪しの婦女を置かざるやう嚴しく口達せりと、

●婦女の鑑　玆に物する孝貞全き婦女の鑑は山口縣厚狹郡西村九百八十番屋敷福江權六の妻、おみよ(五十一)が事なり、おみよは同村伊藤吉郎右衛門の二女にして今を距る三十一年即ち文久三年に權六の妻となりたり、顏形は差して美しからねども心の中の美しきは世にも稀なる婦女にして其舅又左衛門は今年九十三歲の高齡なれども性來非常に酒を嗜み醉ふて並ぶる無理難題も、おみよは聊か忤はず良人權六は近來兎角病氣勝にて稼業とても出來ざるをおみよは甲斐〴〵しく田畑に出で鋤鍬取つての男優り、暇あれば舅と良人を勸り孝貞全き振舞を四人の子供も母を見習ひ末頼母敷見ゆるにぞ、近鄉の評判となりしが、其事早くも縣廳へ聞え此程知事より金二圓を賞賜されたる由實に有難き婦女といふべし、

●新潟女學校賣却　新潟女學校は、去る三月中より閉校せしが、到底再興の見込

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なきより數地建物等悉皆金千三百圓ならば賣却する由、新潟新聞に見ゆ

●宇都宮貸座敷移轉問題　宇都宮町會は本月一日開會し去卅日に貸引續き坐敷移轉問題の三讀會を議するよしなれば、如何に貸座敷營業者が運動せしとて、議事は疾風の如く通過し調査委員の報告を可決するならん、

●長崎の女丈夫　長崎に一女丈夫あり名は慶、俗に大浦後家と呼べり、慶は家附の獨娘なるにより他より婿を迎へしも、商岑上の掛引等にて屢婿と意底を異にし、遂に之と離別せし後は膽太くも單身以て交易商の大立者となり、手廣く諸藩の役人にも取り入り、又當時の豪傑高杉晉作等と交際を結び、有志家の此女丈夫のために扶助せられし者少からず、龍馬の如きも常に其家に往來し銃砲船艦の買入方に從事したりと云ふ、抑も此女丈夫の氣量は實に龍馬其人の知己たるに耻ぢざるものあり、曾て國禁を犯して印度へ出て交易を試みんと企て、竊に茶箱の中に身を潜め外國船に乘込みしも、不幸にして熱病を煩ひつき其目的を果さず空しく途中より歸國したり(其時年齡猶ほ三十二三にてありしなるべし)又慶は外國船に乘込み英商某に逢ひ、始て日本茶の常に支那人の手より輸出するを知り、自ら茶の直輸出に從事したり、是れ日本茶の邦人の手より輸出せし嚆矢なりと云へり、慶は天性濶放にして算術に達したる男妾を傍におき、已は傲然縮緬の坐布團に踞し一々帳簿を精算せしむるに男妾敢て欺くこと能はず、維新後其產漸く落しも意氣益壯にして衰へず、其東京に來るや松方或は大隈等の故舊を訪ふて、玄關に至り書生を呼で長崎の老婆まゐると通ぜしむるに、皆蒼皇履を倒まにして之を迎へ歡を極めて去らしめざるはなし、慶は實に一昨年をもて病沒し重野博士其碑文を撰したりと聞く

●女子同窓會の養蠶　仙台東二番丁小學校女子同窓會の養蠶は、掃立後の經過頗る好都合にて、日中は會員一同之を飼養し、夜に入りては當分の內當直を撰んで飼養に當らしめ居るよし、

●尙絅女學校の養蠶　同女學校には目下三十名の寄宿生あり、日々課業を受け温習を爲すの外薪炊衣飾の事など惣て交番を立てゝ之を營み、專ら勉强を爲し居れるが同校には先年來養蠶業傳習の爲めとて、每年多少つつ生徒をして養蠶を爲さしめたりしに、本年も例に依り一石計りの掃立を爲し給桑、しり換へ等惣て寄宿生の交番を以て之れに當らしめたり、昨今追々上簇に向ひ其結果頗る宜ろしく、此業に熟練なる人も之を見て稱歎する位なりと云ふ、

●感心な少女　島根縣秋鹿郡大野村大字大野上分佐藤傳之助の長女、サヤは三歲の時母を失ひ父傳之助の外九十余歲になる曾祖母六十餘歲になる祖父等に事へてよく孝養を盡し居るが、その家いと貧困なるに父傳之助が病に罹り日々の食事にも差支ゆるにぞ、少女サヤは自分の食ふ物も食わずに父や老人に孝養を盡し殊に曾祖母に對しては別して心を附け勧り居るは、誠に奇特なる孝女なりとて近傍にて賞めぬものなしと云ふ

●清流女學校の地久節賀表　去月廿八日皇后陛下の誕辰を賀する爲賀表を其筋へ奉呈したる由、

●合衆國に於ける婦人の勞働　北米合衆國は女尊男卑國と云はるゝ程に婦人の勞働も亦他國に比し最も發達せるを見るなり、同國の婦人勞働に關する最近報告に依れば、千八百七十五年に於て勞働に從事せる婦人は同國婦人全數の百分の二十一、二三なりしが、千八百八十五年には同百分の二十九、八二となれり爾來婦人の勞働は大に增加し現今に於ては右の如き比例に非らず必竟婦人は男子に代りて勞働を增加するの傾あり、婦人勞働者の年齡は、十五歲以上にして平均二十三歲なり年齡の最も高きは裁縫師、商人にして最も低は製造場の職工なり、即ちチャールストンに於ては、平均二十五歲にしてシカゴにては、二十一歲以下なり婦人の多分は三十歲以前には勞働を止め又結婚後は多く業を停む、統計に依れば婦人の勞働は衛生に害あるものに非らず、又出生結婚を減じ死亡を增すの形跡なし、勞働委員にて調査したる一万七千二百二十七人の婦人の內三百七十三人は一ヶ年の收入百弗以下にして、其多數は二百弗乃至二百五十弗、最も高きは二百五十弗乃至三百弗なり、一年百五十弗以下若くは三百五十弗以上の收入ある者は甚だ少なし、國內最も賃銀の高き所は柔港なり、勞働時間はマサチューセット、コン子クチカット、ニュージャージー、メーン、ミシガン、ミ子ソタ、ニューハンプシャイヤ、ロードアイランド、ヴオルジニヤ、ルイシアナの諸州にては一日十時間に限り、アラバマ及ヴイコンシンにては八時間に限り、右の內マサチューセット州にては一週間五十八時間に超るを得ず、而して新約克の製造場條例は二十一歲以下の婦人に勞働時間を限り、ダコタの條例は十八歲以下同樣の制限を置き、メーンにては十八歲以上の婦人は時間を制限せざるも、二十一歲以下は其父母若くは後見人の承諾を得べきを規定せり、國內婦人は男子の勞働組合の會員たるを得べく、又或る地方議員は全く婦人のみにて組織せる所もありと、米國婦人も亦有力なりと云ふべしと自由新聞に見えたり

●松山女校地久節　去二十八日地久節に相當なしたるを以て、松山女學校にては午後二時より祝賀式を舉げ唱歌、勅語朗讀、演說、祝文等あり其他生徒の父及び有志者並びに六十才以上の男女を招きて、抹茶の饗應をなしたりと云ふ、

●女子部の養蠶　富山縣尋常師範學校女子部に飼養し居る養蠶は、同部舍監田中サダ子が主任となり、同學校內の桑葉を以て女生徒に養蠶の實地授業を爲し居るものにて、目下三眠中なるが、昨日元農商務省屬森木長氏が同校へ出頭し、女生徒に養蠶上の口授を爲したりと、

●十四名の醜業婦人取押へらる　外國に醜業を營む婦人は其筋の取締嚴重なるに拘らず、種々の手段を以て密航を爲す事なるが、去二日午後三時橫濱を出帆せる加奈太滊船インプレスチフジャパン號にて十四名の日本婦人竊に渡航せんとしたるを水上警察署の探知する處となり、同日午后一時頃悉く押へたり、此等の婦人は孰れも印半纏股引鉢卷或は麥藁帽子等にて男裝を爲し、去る一日午前二時頃高島町月見橋より客船に乘り本船に乘込み船中に潜み居りしなりと云ふ、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

孤兒之友

畜耡子 編

曉星園本鄉秀子氏の來翰

天恩の下に御放榮の段奉大賀候次に當園も御愛煉の中に忍耐奮勵致居候間御安神被下度候扨先日御來園の節は殊に失禮致候毎々女學雜誌御惠送被成下難有奉謝候當園事業も追々整頓致候へども何分試煉と困難の爲め不斷絕吽致居候當時㐂人も無據要用の爲め靑森地方に旅行致居候當年はぜひ養蠶致度心組にて專ら準備致居候折柄一昨朝非常の降霜にて桑葉ことごとく痛み到底養蠶の望み無之候又昨日山羊一頭死去致候只今㐂人不在の折柄故種々心配致居候乍然御聖旨の存する處と信して感謝致居候何分當園を覺え給ふて朝夕の御熱禱に御加へ被下度奉願上候今一大試みの中に云ふべからざる患ひの中に幾多の愛兒と供に熱禱致居候前述の始末にて養蠶致しがたく候に付當年は專ら農業と機業に勉勵致す決心に御坐候㐂人も今月末ならでは歸園不致今多忙なる時故私の爲めには一大至難に候へども猶主の御祐助を祈りつゝ十字架を負ひ御命令の下に進み入るべき決心に御坐候何分弱き小妹の爲めに御祈禱被下度願上候兒童の精神に至つては殊に鍛練して美しき精神を供ふるに至りしは實に神の恩賜なりと常に感謝致居候猶兒童將來の爲めにも御祈り被下度奉願上候先は御禮旁右申上候草々頓首

願くは主の御恩寵愛兒の上にあらん事を祈る

五月八日

那須野原曉星園

本鄉秀子拜

○北海孤兒院三月中報告

收入

第一寄付品

女學雜誌毎號
喜の音毎號 東京 孤兒之友
喜の音五部 東京 三浦千尋
福音新報毎號 箱館 吉田茂人
青年會月報 東京 基督教徒青年會
國會毎號 高知 武市安哉
馬鈴薯壹俵 紋鼈 柴田孝三郎
水筆十三本 仝 增田大吉
鮲海苔一升 有珠 梅內多七
護國ノ栖第四十五號 札幌 北海禁酒會
古シャツ三、ヅボン下一、風呂敷一 小樽 藤田キミ
毛糸、帶、人形、ハンカチーフ 箱館 遺愛女學校生徒

第二寄付金

一金七圓 紋鼈 皆川庄吉
一金六拾錢 仙臺 田中兔毛
一金壹圓 岩手 小田㐂七
一金三十錢 花卷 菊地清助
一金九拾八錢二厘 仝 花卷基督教徒婦人會
一壹圓 仝 伊藤五郎
一金參圓 東京 島田三郎
一金五拾袋 紋鼈 永谷鐵之助
一金五拾錢 仝 同 コナミ
一金五拾錢 仝 柴田文十郎
一金五拾錢 仝 鈴木友藏
一金五拾錢 仝 伊藤作之亟
一金五拾錢 仝 木村岱三郎
一金五拾錢 仝 宍戸順平
一金五拾錢 仝 渡邊要吉
一金五拾錢 仝 永田小惣エ門
一金五拾錢 仝 橫山新助
一金五拾錢 仝 岩間彌之助
一金參拾錢 虻田 後藤顯美
一金五圓 箱館 アンデレス
一金二圓 仝 デカルソン
一金壹圓 仝 ハンプトン
一金壹圓十錢 仝 遺愛女學校生徒
一金四圓 仝 岩谷吉野
一五圓 仝 ソーパル

第三賣上代金

一金四拾錢 靴下壹足

總計金三拾八圓拾八錢二厘

支出

一金拾五圓七十四錢三厘五毛 白米五俵
一金壹圓九十八錢 切手ハガキ
一金九十壹錢 什器
一金二十二錢五厘 足袋二足
一金四拾六錢 魚菜
一金三圓〇九錢 廣告料
一金四圓 旅費
一金二圓二十錢 石油壹箱
一金壹圓十錢 印刷物
一金二十八錢 藥料
一金四圓六十錢九厘 雜費

總計金三拾四圓五拾九錢七厘五毛

差引殘金三圓五拾八錢四厘五毛 準備金エ入ル

明治廿六年五月

北海道虻田郡虻田村爺耶湖畔

北海孤兒院

伯州米子の一少女様に感謝す

毎度御名も顯はさで孤兒の爲に厚く同情を寄せられ難有御禮奉申上候、殊に又幼き我孤兒の友を記臆させ玉ひて今回金五拾錢孤兒の友準備金の內へ御惠送被下、誠に麗はしき思召忝く存候、察するに此金員は容易に得させられたるにあらず必ずや多くの辛苦に成りたるものと覺ゆれば一入貴く存じて感激仕候、此資は尠かなりとも生命ある働きの爲に用ひ度相心得候。希くば優渥なる御恩寵の下に益々御放光、御自愛被下度切に奉祈候敬具

六月三日

微なる孤兒の友員

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

史海 第廿三卷 目次

●菅原道眞……田口卯吉君

道眞の人物種々に誤解せられたり、而して之と同時に宇多天皇、三善清行、藤原時平皆な別人となりて世に傳はれり、此篇は其眞相を示し得て妙

●ジエームス、ジー、ブレーン……矢部新作君

是れ米洲合衆國近時の豪傑ブレーン氏の眞傳なり、矢部氏の筆に因りて我邦に紹介せらる彼れ亦瞑すべし

●天孫人種降臨の路順……森三溪君

天孫人種は太平洋にありし大陸に住し、其より西洋又は印度等に別れ、其の一部が日本に殖民したる者なりと說き、依て其の日本に來りし順路は潮流に乘りて海路を來りし趣を論ず

○批評數件

(定價)一冊金九錢。十冊前金七十五錢。市外は一冊に付郵税二錢増◉每月一回發兌

發行所 東京京橋區彌左衛門町 經濟雜誌社

大取次 東京。東京堂、嚴々堂、東海堂◉大坂、岡島新聞舗●京都。便利堂

弊店義今般左記の場所に於て稗史、小說、雜誌類は勿論基督教書類等賣捌業仕候に就ては各種共特別の割引を以て御需めに應じ候間御愛顧御購求の程奉希上候追て名刺引札其他各種印刷物共精々廉價を以て御注文に應じ候間是亦陸續御用向あらんことを

牛込矢來町三番地 旭堂

文科大學教授 文學博士 井上哲次郎先生著

教育と宗教の衝突

全一

○定價金三十錢(郵税共)

此書は教育宗教上重大の關係を論ずるものにて今や世論之が爲めに紛然たり、反對者は百方之を攻擊するも、世人若し自ら此書を讀まば痛快激切必ず深く感發する所あらん是れ教育家佛教家基督教家神官士官憂國の士等必讀の書なり

發兌書肆 東京神田區裏神保町 敬業社

嚴本善治君講述

教育學講義

正價金八錢 郵税金貳錢

右は君が、明治女學校、高等科女生に口授せられたる講義中、之を筆記して、昨年七月より本年四月に至る、白表女學雜誌附錄として、續載せしものにして、先頃より之を一冊子として世に公にせよと請はるゝ者あれば、謂ば君の未定稿なれど、今般廉價を以て同好諸君の求めに應せむとす、

皇后陛下御覽 三島通良君著

はゝのつとめ

四版

和本上製 上下二冊揃 定價金五拾錢 郵税金六錢

●醫科大學產科●婦人科●小兒科●華族女學校●秋田其他數縣尋常師範學校教科及參考書●長崎●福岡●島根

右は第三版賣切の所、今般第四版印刷成りたれば一層直段を引下候間續々御購讀奉願候

東京市麴町區下六番町六番地 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌社發賣書籍目録

鈴木弘恭大人述	百人一首講義	全	正價 金二拾八錢	郵稅 金四錢
同	文法口授	全	正價 金拾二錢	郵稅 金二錢
若松賤子譯	小公子	上	正價 金二拾八錢	郵稅 金八錢
松山高吉君著	邦文學	全	正價 金二拾錢	無郵稅
鈴木弘恭大人述	雅俗諸體作文口授	全	正價 金二拾五錢	郵稅 金四錢
同講述	徒然草講義	一	正價 金八錢	郵稅 金二錢
同標註	參考標註徒然草抜萃	全	正價 金貳十錢	郵稅 金四錢
同著述	參考標註竹取物語讀本	全	正價 金貳拾錢	郵稅 金四錢
同著述	參考標註土佐日記讀本	全	正價 金二拾錢	郵稅 金四錢
同著	女學校用讀本國文抄讀	五冊	一冊 金二十二錢宛	一冊 郵稅金四錢宛
池袋清風大人著	淺瀨の波	二冊	正價 金三拾錢	郵稅 金四錢
島田三郎巖本善治同著	公娼可滅	全	正價 金四錢	郵稅 金二錢
島田三郎植木枝盛同著	廢娼演説	全	正價 金五錢	郵稅 金二錢
安枝武雄君編輯	正義の反響	全	正價 金拾五錢	郵稅 金二錢
吉田利行君著	日本女子讀本初歩	二冊	正價 金二拾四錢	郵稅 金四錢
同著	日本女子讀本	三冊	正價 金三拾六錢	郵稅 金六錢
松田敏足君著述	明治女小學躾草	上下	正價 金四拾錢	郵稅 金六錢
香月恕經君著	記事祝文女子文例	全	正價 金二拾二錢	郵稅 金四錢
木村熊二君編	漢文抄讀	四冊	一冊 金二拾四錢宛	一冊 郵稅金四錢宛
横山雅男君著	婚姻論	全	正價 金十六錢	郵稅 金四錢
船越鼎太郎君著	産婦小兒攝生法	全	正價 金二十錢	郵稅 金二錢
三島通良君著	母のつとめ	母の巻 子の巻	正價 金五十錢	郵稅 金六錢
同編輯	西洋女禮	全	正價 金十二錢	無郵稅
同編輯	子供のはなし	全	正價 金五錢	郵稅 金二錢
村木經策君述	家政要旨	全	正價 金五錢	郵稅 金二錢
佐々木笑止郎君著	もつへる	全	正價 金四錢	郵稅 金二錢
巖本善治君著	吾黨の女子教育	全	正價 金拾錢	無郵稅
海野力太郎譯述	元帳〆切之圖	全	正價 金五錢	郵稅 金二錢

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

著者	書名	冊數	價	郵稅
藤尾錄郎君著	家計簿記法	全	正價金二拾錢	郵稅金四錢
藤尾錄郎君著	家計簿記法例題	全	正價金拾錢	郵稅金二錢
渡邊鼎君著	束髪案內	全	正價金三錢	郵稅金二錢
女學叢書 巖本善治君著	本村鐙子傳	全	正價金八錢	郵稅金二錢
安東松治郎君著	貧兒の教育	全	正價金六錢	郵稅金二錢
訓蒙繪双紙 井上藤平君編	猫と鼠	全	正價金五錢	郵稅金二錢
三板 故近藤賢三君編	廢物利用	全	正價金三十五錢	郵稅金四錢
昆蟲植物金石 星野慎之輔君著	採集法	全	正價金八錢	郵稅金二錢
寺尾熊二君著	植物學	全	正價金十錢	郵稅金三錢
演說著作 女學雜誌社編輯	材料新誌	全	正價金三十二錢	郵稅金四錢
久野正香君著	看護婦美談	全	正價金貳拾五錢	郵稅金六錢
希臘孝子 櫻井明石君重譯	腓立比物語	全	正價金三拾五錢	郵稅金六錢
坪谷善四郎君著	日本女禮式	全	正價金五十錢	郵稅金十二錢
小野鋼之助君編	かな習字帖	三冊	一冊金拾錢宛	一冊郵稅金二錢宛
同編	文かきふり	二冊	正價金三拾六錢	郵稅金六錢

著者	書名	冊數	價	郵稅
農科大學出身星野慎之輔君	應用植物編	全	正價金四拾錢	郵稅金六錢
再版 植村正久君著	基督のすがれ	全	正價金四拾五錢	郵稅金四錢
同	信仰の標準	全	郵稅共金七錢	
久津見息忠君著	耶蘇教衝突論	全	正價金拾六錢	郵稅金二錢
巖本善治君編	教育學講義	全	正價金八錢	郵稅金二錢
炭谷小梅女史著	藝者と手掛	全	正價金三錢	郵稅金二錢
櫻井明石君著	貞婦れ石	全	正價金壹錢	郵稅金二錢
渡瀨かめ子通譯	ウエスト女史遺訓		定價金十五錢	郵稅金二錢
內村鑑三君著	基督信徒のなくさめ		定價金二十錢	郵稅金二錢
竹越竹千代女史編	婦人立志編	全	定價金二十錢	郵稅金二錢
松村介石君著	保羅之傳	全	定價金三十五錢	郵稅金六錢
同	デビニチー	全	正價金十五錢	郵稅金二錢
植村正久君編	新撰讃美歌	全	正價金八錢	郵稅金二錢
聖書會社出板	新舊約全書		金五十錢より	
同出板	新約全書		金拾二錢より	

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

五月三日發行
隔週評論

第五號目錄

時事
方今名士の公病●万物靜觀皆自得●名士第二の病●教界近年無爲●思想界一新景●大國外交の道●新海軍省●圓朝子●點頭及び美服●郡司大尉●新茗の季節

〈閑書〉山路愛山氏に答ふ

講壇
高踏とは何ぞや（植村正久）

文學評論
靜思餘錄を讀む（透谷）

〈文界時事〉境野怡雲を憶ふ●文界莫索

時論
〈片々爍々〉歸郷後のチェンス先生●代議政治の價格幾何ぞ●親鸞上人●外國公使の禮法●清朝公使謁見の禮●日本及朝鮮●率土の濱外人の有●當今の理想●佛徒の學校德育論●罪在人

書架
〈文しらべ〉基督教社會學の書○ジョン、ラスキン氏著書一覽表

〈新架〉日本ゆにてりあん弘道會第二回年報●平民叢書（十九世紀之大勢○世界經濟上之大勢）●殖民協會報告第一號●井上博士と基督教徒●皇室御史

徒然草
獨嘯偶錄（自轉車上小觀察○神白痴○他の評言○幼兒を敬重す）

深山の花をうつし植るの辭（愛花生）

史傳
英國新欽定詩宗、ジョン、ラスキン

雜錄
宗教上、自然界の美に對する雜感（玉翁）○自轉車（しのぶ）○竹を愛す（山下石翁）○竹の利益（櫻井勉）○世界佛教信徒統計○社會主義の眞相（十川子）

海外風信
紐育市の郵便事業●希有なる訴訟事件●白耳義普通撰擧を許す●佛國に於る救世軍●米國の東洋學會

評論之評論
全國新聞雜誌上批評一集畧

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌(第三百四十六號)(明治廿五年三月十五日 遞信省認可)明治二十六年六月十日發兌

文學界

第五號要目 五月三十一日發行

頑執妄排の弊
人生の意義
賤事業辨
內部生命論
俳の性行を想ふ
狂僧、志道軒
悲曲、琵琶法師
伊勢家集講義
阿佛乳母の文

透谷
棲月
天知
(結尾)古藤庵
大和田

彙報には、新刊書籍雜誌の批評紹介あり

定價表

	東京市內	地方郵税共
一冊	六錢	八錢
六冊	卅三錢	四拾五錢
十二冊	六拾錢	八拾四錢

發行所 東京市下六番町六番地 文學界雜誌社

廣告

故山田米子女史紀念の爲め女史生前の知己友人より追悼の詩歌文章を集め女史の肖像をも添え來る七月中に上梓し以て同志の人に頒ち度候間有志の諸君は草稿を青山英和學校神學部內關澤義之助宛にて御送附被成下度候也
但し〆切は六月十五日とす

明治廿六年六月

發起人
巖本善治
矢島かぢ
小林光茂
櫻井成明
關澤義之助

本誌代價

六冊	前金 三十五錢	府外	三十八錢
十三冊(半年)	同 七十三錢	同	七十八錢
廿六冊(一年)	同 一圓三十錢	同	一圓四十三錢
一冊 金六錢	郵税	金五厘	

廣告料及無料廣告

一行(廿七字詰) 一回 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
○十行以上一割引。○二十行以上二割引。○四十行同四割引。
但し不道德なる廣告は謝絶す、慈善の廣告は○社議の上無代價にて引受く○特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲くるもの一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部注文を要し以上半頁毎に十部増さ定む。

明治廿六年四月廿五日內務省許可
明治廿六年六月九日印刷
明治廿六年六月十日出版

發行兼編輯者 東京市麴町區下六番町六番地 巖本善治
印刷者 仝牛込區市谷加賀町一丁目廿三番地 根岸高光
發行所 東京市麴町區下六番町六番地 女學雜誌社
印刷所 仝牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 秀英舍工場(電話十九番)

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY